



第182号

令和7年8月1日
発行常民文化研究会

郵便振込口座
00280-9-12790

「クロス」とはギリシャ語 Xopos で英語 Chorus コーラスに当たります。ギリシャ悲劇では十数人の合唱団として、演劇の進行を説明し、時には民衆心を代弁する重要な役割を果すものです。私達の心を反映する小さな場としてこの会詩を「クロス」と名付けました。

入会受付について

入会は随時受付し希望者は、事務所に葉書にて、住所、氏名、電話番号を連絡の上、本会の郵便振込口座（〇〇二八〇九一二七九〇）一年会費一〇〇〇円を振込み下さい。

石鎚講中参拝紀念録に世相を読む(7)

にしがい
西海 賢二

これまで6回にわたり、西山講中の二百六十年の講中記録を紹介してきた。今回はまとめとして西山講中の歩みと近世中期以降の伊予の高嶺、石鎚山信仰との関わりを確認できた限りで紹介する。

参拝記録から西山講中を読む

西山講中の遡源は宝暦14年(明和元年改暦・1764)に遡る。講中記録をまとめるにあたっては、昭和6年(1931)に、昭和11年(1936)以降に西山講中の先達に就任する西山嘉一郎さんの手によつて宝暦14年から昭和5年(1930)までの断続的に保管されてきた古文書を整理して、確認される限りの文献を加えて昭和6年に広島県忠海町の赤松彦太郎氏が169年間を一書として認めたことが確認された。その後、昭和7年以降は西山講中の先達職を務めた方々によつて令和6年(2024年)まで引き継いできた貴重な記録である。

令和6年3月2日に現在の講元(講頭、もしくは先達)である西山安磨さんの御家族が愛媛県西条市西田の石鎚神社口之宮本社の武智正人宮司を訪ねられ、本年のお山大祭で「西山講中」が260年目の記念すべき講中による集団参拝をするにあたって、講中の260年の歩みを西海に紐解いていただければとの要請があり、翌3月3日から毎日8時間かけて260年の講中の「歩み」を活性化させる事、約一ヶ月かけて読破する事が出来たのである。これは小生が1977年から48年間石鎚

信仰の地域的展開や修験者、四国遍路や木食行者を研究の主題としていたことと、20数年前に「石鎚山信仰」を中心に「民俗学」の学位論文にまとめた経緯もあつて、そのお礼もかねて文字化することとしました。山岳信仰のなかでも江戸中期以降から延々と260年の「石鎚講」を守り、かつ地域社会の深い繋がりを連綿とその経緯を具にすることは全国的にも稀有であり、瀬戸内だけでなく日本の山岳信仰を支えてきた庶民信仰の一端を知るものとして江湖の方々にとつても一つの「証」として参考になれば幸甚である。

西山講中の先達(講元・講頭)の歩み

一代目

西山紋三郎(宝暦14「明和元年」年には先達はいない)
西山紋三郎明和三年先達就任・四年・五年・六年・七年・八年・安永元年・二年・三年・四年・五年・六年・七年・八年・九年・天明元年・二年・三年・四年・五年・六年・七年・八年・寛政元年・二年・三年・四年・五年・六年・七年・八年・九年・十年・十一年・十二年・享和元年・二年・三年・文化元年・二年・三年・四年・五年・六年・七年・八年・九年・十年・十一年・十二年・十三年・十四年・文政元年・二年・三年・四年・五年・六年・七年・八年・九年・十年・十一年・十二年・天保元年(欠)二年・三年(欠)

二代目

石衛門 天保四年・五年・六年・七年・八年・九年・十年・三代目 紋三郎兄 庄助 天保十一年・十三年・十四年・四代目 紋四郎(紋三郎力) 弘化元年
五代目 庄助・弘化二年・三年・四年・嘉永元年・二年・三年・六代目

二代目紋三郎・嘉永四年・安政二年・安政三年・安政四年・安政五年・万延元年・文久元年・文久二年・文

久三年・万治元年・慶應元年・慶應二年・慶應三年・明治元年・明治二年・明治三年・明治四年・明治五年・明治六年・明治七年・明治八年・明治九年・明治十年・明治十一年・明治十二年・明治十三年・明治十四年・明治十五年・明治十六年・明治十七年・明治十八年・明治十九年・明治廿年・明治二十一年・明治二十二年・明治二十三年・明治二十四年・明治二十五年・明治二十六年・明治二十七年・明治二十八年・明治二十九年・明治三十年・明治三十一年・明治三十二年・明治三十三年・明治三十四年・明治三十五年・明治三十六年・明治三十七年・明治三十八年・明治三十九年・明治四十年・明治四十一年・明治四十二年・明治四十三年・明治四十四年・明治四十五年(大正元年)・大正二年・大正三年・大正四年・大正五年・大正六年

七代目

西山幸三郎 明治二十三年・明治二十四年・明治二十五年・明治二十六年・明治二十七年・明治二十八年・明治二十九年・明治三十年・明治三十一年・明治三十二年・明治三十三年・明治三十四年・明治三十五年・明治三十六年・明治三十七年・明治三十八年・明治三十九年・明治四十年・明治四十一年・明治四十二年・明治四十三年・明治四十四年・明治四十五年(大正元年)・大正二年・大正三年・大正四年・大正五年・大正六年

八代目

西山石太郎 大正七年・大正八年・大正九年・大正十年・大正十一年・大正十二年・大正十三年・大正十四年・大正十五年・昭和元年・昭和二年・昭和三年・昭和四年・昭和五年・昭和六年・昭和七年・昭和八年・昭和九年・昭和十年

九代目

西山嘉一郎 昭和十一年・昭和十二年・昭和十三年・昭和十四年・昭和十五年・昭和十六年・昭和十七年・昭和十八年・昭和十九年・昭和二十年・昭和二十一年

十代目

西山義数 昭和二十二年・昭和二十三年・昭和二十四年・昭和二十五年・昭和二十六年・昭和二十七年・昭和二十八年・昭和二十九年・昭和三十年
十一代目 西山信市 昭和三十一年
十二代目

樋口謹松(樋口金松もあり・誤記力)昭和三十二年
十三代目 西山一夫 昭和三十三年